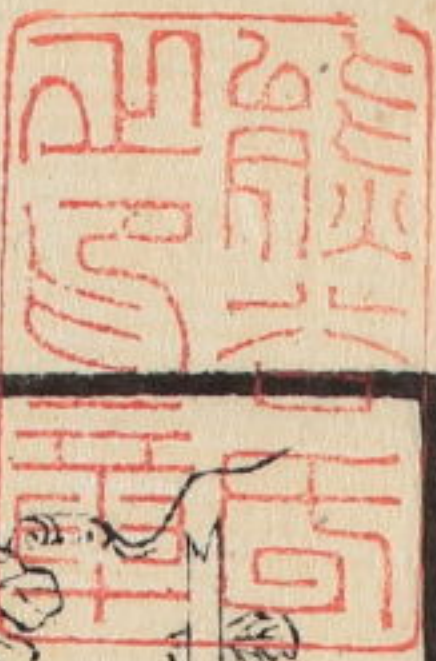


繪本豐臣勲功記

四編

七





繪本豊臣勲功記四編卷之七

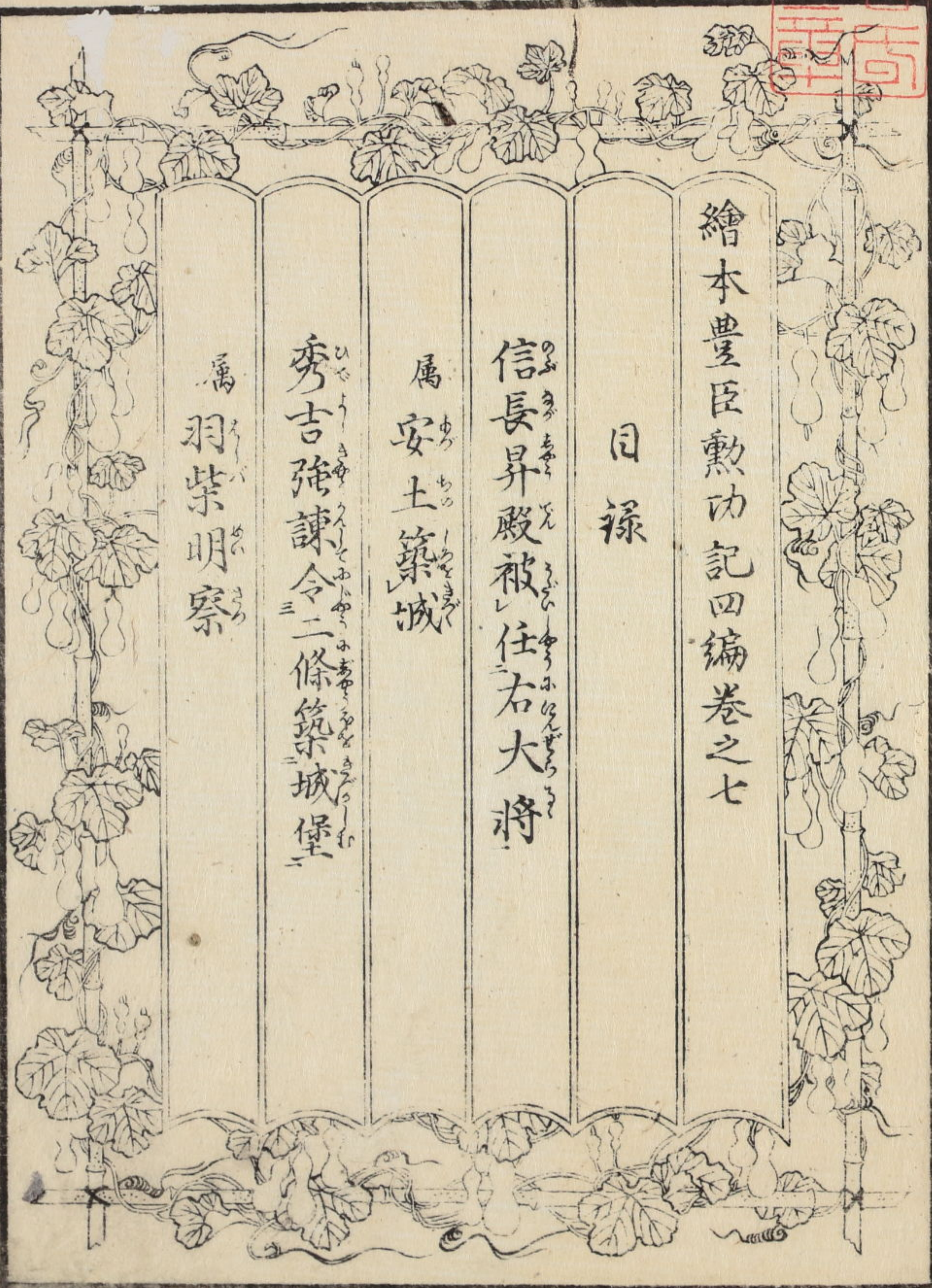
目録

信長昇殿被任右大将

属 安土築城

秀吉強諫令二條築城堡

属 羽柴明察



繪本豊臣勲功記四編卷之七

越前出勢羽柴柴田幸福

属 秀吉内門

松永謀叛志貴之城落亡

属 傳助要死



繪本豊臣勲功記四編卷之七

櫻澤堂山 編輯



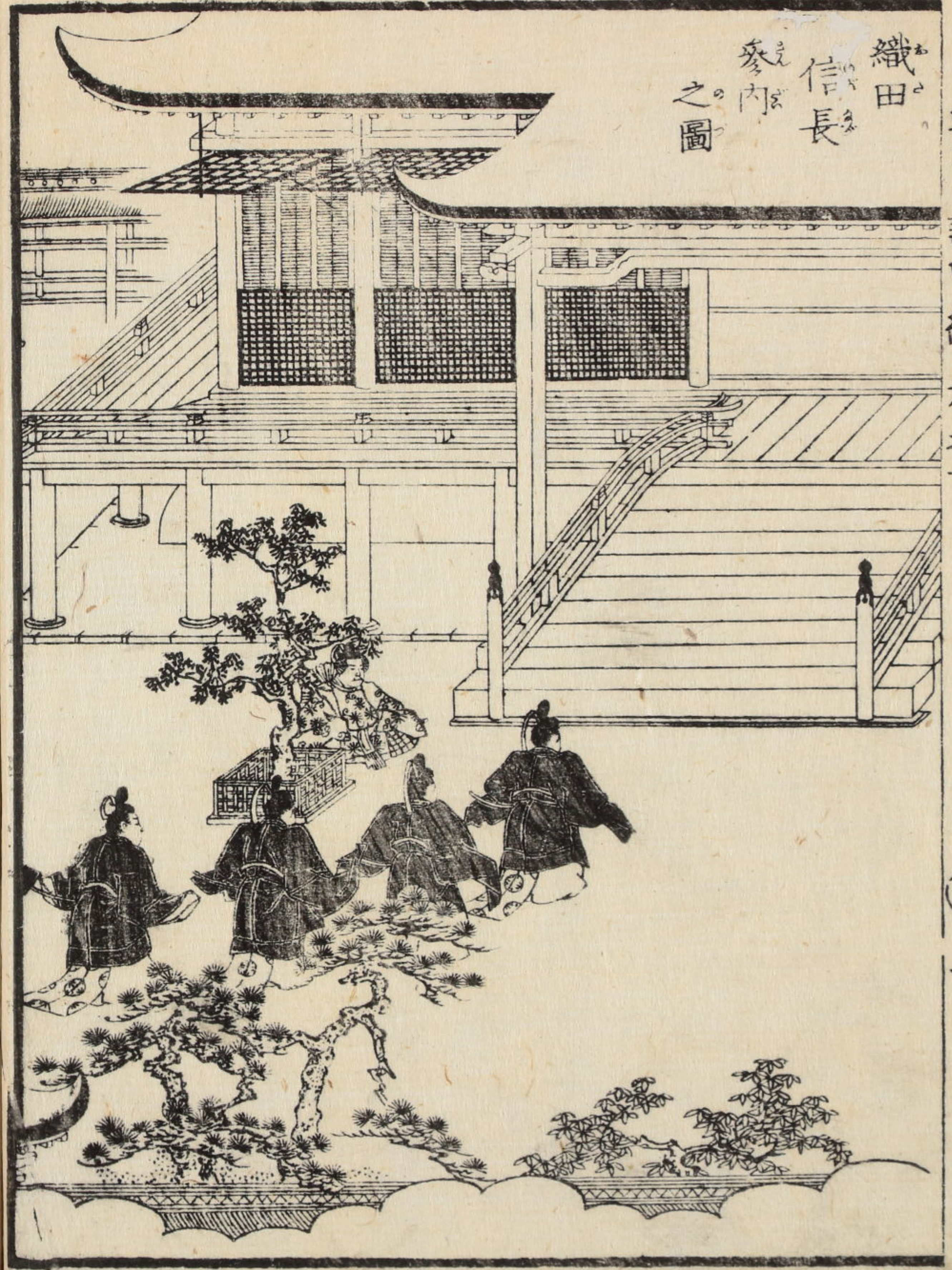
信安昇殿被任右大将属安土築城

後漢の光武室々。賈復一千里の威を里と漢去ハそれを大武と出る  
とも、今遠織田小比枝一ぬきハ又稱する小足さるる一然やとも信長  
ハ依然として波阜城一軍を降させ玉ひ。同年十月上の十日又復上  
洛ありせらる。去ぬる天正元年義昭公二条の城を退去の後信長天  
下の政道次執行すくおとくたるゆゑ威勢天地をも刀尺とてこれの  
ゆゑ禁中も殊々信長を重んぜらる。諸卿方ハ猶更に尊敬する  
事神の如し。遠連上洛ありし西三條大納言實條御水を瀬  
宰相親氏卿江州柏原まで所達する。其外隣國の大小名瀬田邊坂



陣の座と謂は將軍宣下  
ある所の整裝束の廳  
紫震殿の西六間の軒  
廊と過まはるゝ陣  
の座より一間五尺四方  
ある所の宣陽殿と南は  
孔雀の廳を西に構ゆ

豊臣氏四景



織田  
信長  
参内  
之圖

豊臣氏四景 卷之七

山料の色まで車馬と連結し、出迎を是れ度、勝軍旗を以てするを。原く然りとて入京河、加之所在京中。羽州米澤の城主、信達、大膳、長治、大内、山城、皆賀相、併馳登て幕下小属、一借小天下、静徳の功、初めんと、傾心するも、理ゆんぬ、然るも、河内の勅諭とて、頼朝卿の例と、遜られ、信長をもく、権大納言の右大將小任、らまんと、其河津、俣、と、陣の度、河津、菅、あま、十一月十四日、昇殿を許され、天益を賜、十七日、拜賀の儀式を以て、首尾、嚴、み、成、見、と、河海、昇、平、と、爲、さ、公、い、の、大、將、軍、あ、ま、と、上、下、奉、て、主、張、せ、る、是、も、依、く、織、田、信、長、若、成、今、小、あ、る、ま、で、例、抄、さ、武、威、権、勢、を、れ、が、羽、州、も、輝、さん、と、河、州、安、土、の、山、面、小、一、座、の、大、城、を、結、構、せ、る、是、や、河、海、を、平、の、公、壽、策

と、並、せて、帝、都、を、護、の、勤、め、お、け、歳、の、冬、より、其、地、を、撰、ま、る、是、爲、城、を、阜、と、も、つ、く、嫡、子、信、忠、小、讓、ら、ん、が、爲、の、思、起、り、既、小、三、年、の、年、以、暮、て、新、末、ハ、天、正、四、年、丙、子、の、華、月、に、南、滿、生、那、國、の、林、の、安、土、山、を、近、國、之、雙、の、勝、地、と、し、當、地、小、居、城、を、築、ん、と、惟、任、を、命、じ、長、秀、を、奉、行、と、し、也、正、月、十、日、城、を、以、て、折、用、し、卯、酉、の、時、を、責、て、急、が、れ、る、亦、も、此、安、土、山、と、稱、さ、る、ハ、孝、碑、所、と、し、て、山、心、嶺、崎、と、り、風、系、恰、も、奇、絶、小、一、く、要、産、も、ま、ま、可、なり、日、向、守、光、秀、ハ、城、地、を、選、ぶ、の、妙、と、え、た、ま、バ、光、秀、城、を、く、量、索、み、ま、む、茲、に、於、く、惟、任、日、向、守、光、秀、取、て、天、守、法、尊、を、一、層、く、七、重、あ、り、て、刀、利、天、の、音、樂、も、聞、ゆ、る、と、疑、え、れ、南、北、共、間、二、重、の、石、礫、喬、さ、こ、こ、七、丈、二、尺、遠、近、の、世、尔、来、曾、有、の、壯、觀、と、こ、そ、知、ら、ま、し、れ、光、秀、安、土、山、の、地、理、を、相、て、名、城、の、地、の、奇、を、以、て、武、將、の、居、處、を、爲、成、と、

合、三、段、八、和、  
別、志、貴、山、  
松、水、久、  
秀、光、光、秀、  
の、天、守、法、  
尊、初、と、し、  
と、以、て



明智光秀  
安土の城  
の  
圖  
と  
作  
る

豊臣記四編卷之七

又三



豊臣記四編卷之七

三

信長  
京都の  
守護  
江州  
安土  
大城  
築



豊臣氏

甲



豊臣氏

乙

もつて城郭を権勢をもつて要害を奪ひ取らん。浩る博六の結構これども  
 長秀力て堅固一けき。二月央の玉天よへ。経営令く成就一けき  
 二月廿二日とも川く。河搬居あらせらる。長秀を厚く河賞ある  
 備又山下の耕地ふ近長の人と改任せ志めんと逆く結構成就を  
 一む。此小管む天守の号改奉徳親と呼稱へ。後小徳見院のその攝法  
 のいよりやう守内上下まきまき。金銀珠玉あらぬを。口色  
 親境を獲て親を西より北へ琵琶の江湖渺として碧光深く。これ小  
 櫻出竹生海ハ天竺妙絶の勝系やて一過の腫を飛せれば比島巻  
 江ハ獲珠洗ひ如意嶽小翠錦を織る。南の方ハ郷と邦と。恭  
 馮の像く平小して。即神山と白雲山と。天伐裂くたうりに  
 也。又東ハ信吹山。水晶嶽。輝迦嶽。春夏の色ハ赤緑して秋をハま

全歌  
 常と又  
 明福の  
 若なり肥  
 若の同年  
 戸小  
 今二  
 今二  
 今二

黄白なるも最叢多風系なり。簾ハ性未退遠くして。晝夜人稠  
 ちもさくらむ。千門万户軒と連。農陌高軒棟と並。倉と  
 是小六過ト。然る小橋奢の勝。唐人一欵といえる者小唐土の如く  
 薨と鑄陶を。誠小武將の居城小足ぬ。階く層く疑ら。天小や隣を  
 る境界あり。加之諸國の大名我むくと春候して。珍宝物を  
 献トける。そのくを歳千万といふ。除限更小。ざりける。天守といふ物ハ  
 秀吉法諫令二條築城堡属羽柴明察  
 上古ハ穴居して野處をといふ。それをあらくに安土山ある百窓環  
 の大城ハ天物鬼神の靈力り。威統するをり。結構なり。それハ  
 閣と又く小。羽柴秀吉願てより。信長大膽の奉止のそみく。上治  
 一五小節も。信房おれを寄宿し。世代を畏小のそおがける



由急。これと屢練め忠言をりて禱をとりども。こゝまで用ゐるや  
 一統をいふの既小失と過む。沖大切の衆にすまされ。他は  
 止しむこと。久らぐも不安あり。此小依る洛中に一城をりて築置  
 是洛と洛まゝとを機會へ當城小入御しむこと。然るゝと  
 まのゝを。君の沖威光盛人なきとも。戦國の中へ他邦の用者或ハ刺  
 客。神刀の族源を闇ふく。矢代驥一。時の虚小系トく。仇をる害も。  
 後なゝと六りす。が。大將の戦國小除る。八方を敵とらる。洛  
 づこ。言傳く候る。君小沖心。極くおをる人。をり。蠶虫  
 の像く。おがさる。こと。か。遠く。上洛ましく。さ。洛旗  
 本の名士達。妙さ。とも。願を。只。信房の。洛間。る。小。洛。寄。宿。ある。こと

遭くる。古。治。も。龍。帝。真。服。され。ば。る。を。漢。師。の。過。り。と。所。傳  
 ぬ。武。威。い。う。大。切。の。時。節。左。小。右。沖。身。の。沖。小。心。を。り。む。こ。を。簡。要  
 され。武。威。を。り。の。城。とも。か。兵。とも。か。ま。良。將。の。智。勇。と。り。六  
 く。候。つ。も。そ。ま。六。明。察。を。敵。小。討。ひ。決。戦。ま。す。時。の。事。を。獨。り  
 こ。を。爾。め。う。を。着。り。來。る。の。み。の。み。の。ま。を。防。ぐ。の。沖。神。慮。を  
 め。ら。し。む。と。只。願。小。強。練。り。す。そ。ま。川。の。信。長。卿。の。沖。了。簡。ハ。大  
 勇。不。敵。を。專。と。り。む。し。寺。院。の。洛。間。と。り。の。も。お。が。さ。る。後。來。信。宿  
 ま。し。ま。せ。が。方。僅。秀。吉。が。強。練。小。漸。く。謙。心。あ。せ。ら。ま。す。次。遭  
 上。洛。を。は。機。會。に。命。ま。を。さ。む。の。宣。ひ。たる。小。を。秀。吉。が。小。喜。院。を。し。  
 誠。忠。を。述。く。退。出。せ。り。又。子。春。も。過。日。晦。日。と。り。る。日。琵琶。湖。を。渡  
 まで。上。洛。し。む。し。二。系。妙。覺。寺。小。寄。宿。ま。す。く。慶。便。二。條。殿。の。沖。邸。空

地とありてありし。遠小坂堡に結構を成すと。所善清の義と所  
 目代する村井長門守に命ぜらる。秀吉密小村井小通下る。前廳後堂  
 等を羨慕ふる。金銀銭録。珠玉と飾り。外面に石礮塔柱を  
 丈丈小結構して鉄城小比とせしむ。とくして鉄合せしむ。君命  
 を以て急不決し。然る小信長五月五日。急小京都と所善清あり。大坂  
 表へ所出馬あり。是の一日五月二日。天王寺在甚たり。織田の軍名石山勢  
 と合戦あり。原田儀中も戦死せしむ。信長大小怒らせしむ。此地小所出馬  
 あせけるあり。然りとくとも本願寺勢。堅固小防戦ありしむ。容易  
 攻拔がく。怒意を收吞く六月八日。徒く所由系何り。遠道信長石  
 山攻小鳥銃癩を負りしむ。小麻されども暑中のみ。所保養ありしむ。ト  
 とく。翌日安土へ還所あり。然る小村井長門守。善清の之夫とありしむ。ト

惟仕日向守光秀来りたる。是は破便の時ありと。所善清の  
 事ふつた。秀吉の内意と門禪る。光秀これと兼听。羽柴の内意も理  
 む。己も亦宜く繪巻に調整。君へも言状し。とく。村井大  
 小喜悅あり。惟仕を侍ひ善清場小到る。光秀之夫と廻らしむ。  
 本丸要所の結構と。繩掛ありしむ。繪巻小記書。その一技と村井小通  
 與一技をり。光秀とあり。安土の城小冬候あり。件は趣を言状  
 せしむ。信長殆所感あり。光秀が献が。繪圖の像く善清と命  
 遣さる。村井もこれ小安達して。一羽染小告知せしむ。秀吉も又安  
 去小もあり。借記の繪圖紙跡見しむ。猶も不足。所ありしむ。君命と  
 遂く京都小到る。村井小存び指圖して。その結構と問うせしむ。  
 漸く夏の日も盡く。秋風噪く中元の日。安土へ注伸の馳馬あり。中

國毛利家より。枋州石山本願寺へ名糧運贈ありけり。川口におい合  
 戦のる。織田家の素兵員多く戦死せし。此用えり。日も遠ざりて  
 北園より。駒馬来る。佐仲も。加州大聖寺の城を。戸次右近。加州北郷民  
 一揆門。と志をく。合戦あり。戸次右近。小勢を。両三度まで。勝利  
 と得たり。然りと。いども。加賀一揆。まじく。人員多勢となり。僅の勢は  
 日毎の軍。小入馬。芳き。交代。小入。長。と。牢城。守り。けり。お  
 北の庄へ。使者。と。馳。柴田へ。加勢。求。め。け。り。勝家。い。お。ひ。人。事  
 によ。せ。く。加勢。せ。て。依。く。件。の。趣。と。頻。小。安。土。へ。注。進。し。て。後。援。を。と。こ  
 急。る。る。急。信。長。諸。將。と。集。り。評。議。を。羽。柴。秀。右。進。出。預。め。城。前  
 の。柴。田。刀。鋒。戸。次。へ。加。勢。し。て。さ。し。く。時。く。加。州。を。斬。取。べ。し。君。れ。津。波。大。聖  
 殿。に。お。り。右。近。一。個。小。防。戦。を。させ。牢。城。既。小。危。ふ。け。ま。し。も。勝。家。後

援。せ。る。い。ふ。七。州。藩。鎮。の。身。を。い。く。暇。希。加。越。れ。境。を。津。波。大。聖  
 寺。の。自。軍。に。難。危。と。救。え。ん。も。せ。む。津。波。大。聖。寺。援。を。乞。所。謂。を。し。  
 然。れ。も。今。新。戸。次。方。より。危。急。と。告。る。う。の。う。誰。と。加。州。へ。下。向。せ。し。  
 猶。柴。田。も。津。波。大。聖。寺。と。い。く。加。勢。の。事。代。命。所。ら。を。志。す。と。言。ふ。  
 小。信。長。実。は。も。と。思。召。され。誰。と。加。勢。小。遣。せ。し。と。命。も。待。て。未。成  
 あり。佐。久。間。盛。政。勝。家。の。進。出。怖。れ。小。信。小。命。付。ら。を。賜。ら。る。伯。父。勝  
 家。誠。信。傳。し。て。不。日。小。加。州。の。一。揆。軍。を。慶。に。は。つ。ま。つ。と。何。と。放。ら  
 て。望。ま。け。ま。し。羽。柴。莞。尔。と。う。ち。笑。ひ。結。を。望。ま。し。め。られ。た。是。足。り  
 被。地。小。趣。ふ。一。揆。の。誅。伐。安。ら。る。君。小。評。審。あ。ま。か。し。や。と。解。捕  
 ら。る。ふ。ぞ。右。大。將。津。波。大。聖。寺。盛。政。小。下。向。せ。し。と。命。喋。る。佐。久。間  
 外。一。人。の。將。士。と。加。へ。遣。は。し。と。宣。ひ。ら。る。代。筑。前。守。密。小。言。状。は

ける。將士を副させ、及ぶに盛政一個當向む。必定勝家  
 出馬して、玄蕃と接け加州一揆。斬徳めんこと難うま。まつ  
 上杉越前へ亂入の沙汰あると云ふ。おとつるも、此處に  
 謂ハ先年之秋、藤信足利家より關東の常領職小補せし  
 也。北条と倒して、坂東と掌小領人となりしこと、頻なれども、甲斐此信  
 玄大敵あるゆゑ、妄小出陣せざる。信玄既に卒去せし。東國出  
 馬の時と得る。その美濃専らうんふ。と上方へ撃登る。こゝら  
 此處に勝家あり。然る右近と救ざる。懐ふ心材に候へん上  
 杉波地へ亂入の事ハ、虚脱あり。一揆盛政に。とく命合らる。越  
 前備固城作置加州の急と救ふ。命ト玉を依之る言  
 蕃悦で兼知はまつ。戸次右近へ。教度此戦功を褒賞せしむ。

依久間小交代して帰る。とく。別く命遣えられ。呼返し。お  
 べ。と初めける。お長御。稍其意は悟らせむ。而時に玄蕃  
 と唱出。汝速く加州へ下向。勝家と備小一揆と鎮めよ。加賀一團の  
 地小控る。真那まで其旁が心任た。戸次小代。とく。激せ  
 よ。と命らる。と云。蕃元おひ小款。糧で濟奉まりし。直地小加  
 州へ下向。勝家が許へ。冬向して安土の首尾と門障。且証書  
 方類。思ふ。能登。越中まで攻取とも。濟谷あり。さ。中。功  
 戦次。おの命を。叔父甥。力。勳。す。て。小國の地を悉く。斬  
 登。小。相。親。也。早。加州へ。發。軍。一。猛。威。を。振。お。烈。戦。け  
 ます。數。月。を。経。ぶ。小。加。州。の。一。揆。洗。ふ。が。如。く。平。鎮。せ。し。る。受。迄  
 勳。を。使。者。と。し。加。州。平。場。の。由。汝。報。ふ。又。將。是。を。威。威。河。り。て。宋。田。依



常陸亮。新藤新三郎安藤守藤勝藏。相集る。時小秀在  
 所。小出是を難トて言状さる。夫戦國は時小一。北國をうりて大  
 事にあらず。四方は秋後伏せざる。小旗本の空虚たる事。誠小直一  
 つらざる。當く見えらる事。もみれ小。多勢をり。つらざる。小國  
 境へ遣され。後小く東國西國より。襲来らる。いして。これ防ぎ至  
 ぶ。とや。觀面長田勝頼。長篠の死。残雪ん。と。虚を窺ふ。最中  
 あり。其時不意に。内裏も。量りか。く。たに。も。右小も。小旗本を  
 大丈夫。小。か。れ。何時に。く。も。急。何。是。残。征。伐。あ。せ。ら。る。  
 所。準備。あ。り。候。加。刑。を。急。小。征。伐。を。さ。ん。の。か。が。た。ち。却。く  
 弟。を。招。小。似。し。方。既。小。依。久。間。茶。田。依。彼。地。子。出。陣。法。を。ま。つ。ま。つ。一  
 揆。の。う。め。は。阿。容。と。と。犯。さ。る。義。も。候。す。只。緩。と。征。伐。は。所。之。更

とす。す。す。す。上。枚。礼。入。此。風。聞。も。多。く。虚。説。小。ゆ。と。ん。銀。令。バ  
 實。説。小。も。い。せ。何。量。れ。事。く。い。届。じ。謙。信。い。ふ。勇。將。を。り。と。て。五。日。十  
 日。の。防。戦。と。せ。ら。さ。ざ。る。と。事。や。あ。る。然。ら。ば。礼。坊。の。時。小。降。と。所。加  
 勢。あ。る。と。遅。ら。る。多。く。是。非。く。人。員。或。當。向。ら。る。と。か。が。め。に。は  
 ら。つ。一。面。人。の。大。將。小。之。四。小。務。此。軍。勢。を。遣。り。され。然。る。と。と。憚  
 色。あ。く。言。状。し。られ。ば。信。長。所。氣。急。と。あ。り。か。と。予。既。小。軍。令。を  
 拘。出。し。く。緒。勢。を。集。め。北。國。へ。下。向。を。せ。んと。欲。さ。る。所。汝。人。是。を。拒  
 して。障。止。る。ハ。底。事。を。や。四。方。小。款。後。め。る。事。ハ。予。預。て。し。る。を。知。り。と  
 ころ。又。畿。内。か。よ。び。東。國。西。國。を。區。に。分。撥。して。氣。煩。不。更。小。也。  
 汝。存。び。言。状。致。さ。る。發。進。費。あ。る。と。も。つ。の。外。小。比。り。む。つ。ハ。  
 秀。右。累。の。く。言。登。と。詞。あ。く。歎。息。し。は。諸。將。と。信。小。誠。前。當。て

不信の訴ふ  
加勢を發し  
秀吉不快の  
胸を演る



後向も。這時、柴田勝家ハ北の庄小ありたるが、加勢ハ諸將下向と听  
 ころろと機弁へ出く侍よ。やどろく羽柴惟任、瀧川俊秀、勢を率して  
 判着せしむ。勝家諸將に對面を、遠路を勞らひ、區々小懸懸を以て  
 接れしる中、羽柴秀吉ハ不快れ、体立て河を渡るが、日、柴田と不平  
 なれども、遠道ハ加勢の事なるゆゑ、外の諸將と同様小接れ、詞を  
 演けらる。秀吉、鷹もせりしむ。柴田怒り堪へて、筑前守小向ひ  
 小由急足下ハ勝家ハ接れしる小言をさや。不禮至極と怒らるを  
 秀吉、听て詞を柔らけ。吾忠言をり、何ぞ出陣哉。諫むまこと、君用  
 ぬまへず。吾蓋の僅、但小加えしれ、來まるとの快、わらむ恨らるハ  
 自身、誠思ふく、君を懐ふ輩を、頻々歎息させしむ。勝家、いよく  
 憤怒を發し。自身をかりめて、君、誠かりとさるる、六雜を嘗て、謂る  
 ぞ。汝一人、忠臣小して、餘ハ多不忠とかりしや。吾蓋ハ、僅、但小加えしれ  
 て、來りしと、ハ我を離るの一言。謫、懐かりと罵り、けしむ。秀吉、まこと、も  
 動搖せむ。是下、ふらむ、腹り、あふる。开も、吾掌鞋の着しり。福、被巧言  
 詞とせむ。君れ、あ天下、此、あ小善らん、事ハ進ま、行ひ、抽て、初め、ま、い、  
 せ。凶事ハ、控威と犯して、も。争、少く、諫め、て、ま、つる。刻、や、朋輩、此、諸、勇士  
 小。巧、る、言、の、何、多、さ、さ、く。方、僅、乃、夫、が、忠、心、義、膽、利、の、赴、く、不、を、粟、を、磨、し。  
 是下、小國の、追、補、使、と、く。七、別、を、鎮、め、む、小、織、小、在、な、が、ら、い、ま、ご、款  
 後、此、遠、國、へ、礼、入、の、證、し、も、な、れ、小、亦、加、勢、と、を、り、小、さ、ら、ハ、居、た、り、の、  
 忠、心、と、く。足下ハ、織田家、右、老、の、長、居、北、國、の、藩、鎮、と、す。當、城、小、在、任、  
 せ、る、是、且、又、佐、久、間、右、衛、門、尉、惟、任、日、向、守、と、な、る。播、磨、殿、守、の、方、小、在、  
 て、安、ん、守、護、此、門、ハ、惟、任、瀧、川、肩、中、と、孫、と、乃、夫、が、家、近、に、小、あり、て、不、

豊臣記四續卷之七



侍の愛事と防ふ不足なり。然るに遠遇上枚謙任當國礼入の沙汰  
ありし。頻小加勢を乞ふ由急俺們下向志つるなり。何國小判つと據  
らくとも。忠義小若別へゆるまらざる。惟任瀧川の要將なり。稲葉  
氏家乃夫まゝ。大平當國小末をての沖旗を空虚と有り。然るに  
捕佐のほりも。万一不時の愛出来らば。誰うくこそは防がん。殊小  
今主君此沖身ハ將軍に登らせむ。以承と承等一かき。沖旗ハ  
此處をらんこと。之もぐも不可なり。諫言りふせと敵前の新証頻  
みつとありて。ち護の輩れを厭ふ。下向志し命ぞれ  
り。忠長なる案の心して。あはれ歎息せざる。是よりて続まじと  
真實の理成舒け。勝家ハ理と听かざり。秀吉我と侮誇り  
て。傍若無人のりや一條と心中の怒す。長とて。稲も屈せど声

と烈す。汝平日我をも。妬恨むの心何ぞ。由急小辨吉の行小信  
せく。我加勢の預い。妨げんと破するなり。遠上ハ我戦たざるまで  
一個も加勢を受る。諸將おのく江川へ帰せむと謂放つ惟  
任。瀧川。稲葉の門。面惑むること。障りなく。秀吉の詞も當理かれ  
ども。柴田城捨んもいめざる。と雙方を和げ宥む中にも。稲葉一徹  
母。老功かれ。柴田城疎めく。羽柴が詞ハ福ひなく。真實心の江  
とて。急をかきむ心。小けあふ。俺們君命を蒙りて。遠く遠地へ  
来りし。此遠來に。一軍せ。君の所答もあつる。是下の  
指揮小随ふ。加列なりとも。敵中へあてとも。費向さへくと種く  
解和せし。勝家決して秀吉の加勢を受と。疑事なれば  
秀吉果て諸將小向ひ。然る乃夫の近江へ帰る。主君とち護一東

豊臣記四編卷之七

四

諸將の遠地小作りて、柴田を助けまへり。命は忠義の爲  
 なるに、私の事論を益かり。と別様を告て、自公に早。早と安  
 去、降るべきける。信長之に怒らせむ。予が指揮を奉むて  
 我意を奉止降す。條言、降し絶して不忠なり。朝の思村を所  
 小及たむ。出仕を用と敷、圍ひけ。叱て申す、河原へ出さば居城不  
 獲て居るべし。と命出さる。諸士達の勅解まうす。城も諾受むと  
 ぞ。声を放く怒くせむ。秀吉はさくもいむ。色を。願降て小  
 吉へ降り、門戸は閉く。藝居し、なれば日來、羽柴と懇懇に諸士へ  
 約の毒れ、信長は信長。信長は信長。大将なれば、いなる河原は、  
 中の人と手小汗、折す。辛配りたる。増てや羽柴が光景、悔ハ度  
 以飲食も忘るる。寧ろ心のなれば、小轉秀吉、何れ夢也。

由り、後樂子との舞踊を集め、酒壺は僅ふし、乳舞を言を  
 畫表をうらむ。遊樂して、行状すらも、慎み、思の随に奉止  
 一かへ、浅野、樽頭、賀、極尾をたぐめ、股肱は個々、驚嘆か。平定さ  
 へ、後、慮、別、氣の、織田、殿、備、遠、由を、听し、め、こ、い、い、く、憤、怒、成、度、い、む、ひ。  
 いろなる、智、料の、あ、く、ん、も、知、ま、さ、ま、練、ま、せ、ま、ん、バ、何、と、こ、こ、ま、ん、人、形  
 柴、ヶ、前、は、出、し、い、い、ふ、も、れ、れ、な、り、河、原、遊、興、ハ、放、逸、れ、中、う、小、見、請、い、い、  
 なる、事、れ、お、が、め、し、小、や、最、も、内、府、忠、言、を、逆、耳、せ、く、こ、こ、用、の  
 玉、を、ま、ど、却、く、閉、門、を、命、む、る、條、不、に、之、道、れ、不、為、と、い、く、も、ま、ま、れ、  
 義、な、れ、バ、身、代、柱、と、河、切、解、願、い、何、ん、と、言、を、然、ハ、さ、く、遊、興、氣、樂  
 に、耽、り、酒、宴、ハ、長、く、憚、り、な、ら、ば、若、成、候、る、中、う、も、所、也、後、令、河  
 既、解、ハ、せ、く、ま、さ、ま、と、も、河、原、河、原、慎、ま、か、ら、し、て、こ、そ、河、原、免、の、時、節、も

ある處々れ。数年辛勞しむひて。斯まき遠く戦功一時小室  
 しく志むらんこと。日來此所。頗意小相違せり。頼人のあはれ。奈しむ  
 と。詞を想へく。諫むる小秀吉。何氣をくち。笑ひ。厭ハ汝。侮か意  
 たぐ。是。吾。信。長。小。仕。へ。く。く。を。一。日。序。時。も。安。所。せ。せ。也。新。骨。碎。身  
 ぬ。ま。し。く。從。未。年。月。汝。送。り。が。使。使。遠。遣。の。閉。門。ハ。誓。を。去。り。た  
 よ。さ。時。な。り。出。仕。登。城。の。劬。勞。も。ま。軍。事。謀。畧。小。心。も。痛。め。也。  
 斯。安。閉。と。門。戸。試。閉。く。藝。居。と。と。响。み。く。杯。ハ。酒。宴。礼。葬。も。僅  
 ぶ。し。が。し。汝。等。も。意。減。痛。め。也。酒。飲。蕪。ふ。く。積。勞。を。散。ら。る。也。  
 と。呪。然。ふ。う。ち。笑。ひ。心。体。も。ま。く。見。え。ら。ふ。也。家。長。老。黨。斬。果。噫  
 甘。身。し。や。主。人。ふ。ハ。天。魔。の。魅。る。の。あ。ら。ん。羽。柴。殿。と。て。儀。田。家  
 此。長。小。肩。試。並。ぶ。る。案。も。な。れ。大。將。の。所。と。ま。り。は。る。り。の。を。満。れ。ハ。開。る

所謂小也。禮礼にむく。此所行ハ是。非もなき事。人ぬら。か  
 儀。福。鴻。片。相。掘。尾。時。須。賀。侮。も。勇。氣。減。損。也。歎。息。は。ま。し。く  
 あ。ま。り。ま。ま。ば。濱。野。孫。也。清。之。丈。を。廻。り。也。斯。ま。く。酒。興。小。乱。る。响。ハ  
 我。等。が。諫。め。も。無。益。な。り。也。今。正。小。勅。め。く。柔。順。小。諫。め。さ。せ。ま。う。さ。ん  
 と。腰。心。の。案。譚。合。せ。頼。く。秀。吉。の。室。家。に。参。る。也。此。詞。を。ま。り。し。あ。げ  
 々。ま。を。阿。八。重。の。方。に。も。愕。れ。亦。末。才。智。此。女。性。を。ま。り。也。地。心。夫  
 秀。吉。が。酒。宴。ハ。席。小。推。参。る。何。氣。を。く。機。強。を。回。ひ。借。小。應。興  
 我。添。く。ま。き。も。要。時。遊。程。あ。る。て。後。近。士。を。選。り。け。秀。吉。小。諫。ひ。老  
 黨。侮。が。歎。息。の。始。終。且。ハ。上。聞。諫。語。等。を。承。り。お。く。候。也。漸  
 牙。此。と。小。及。た。ま。ら。う。也。漸。改。心。め。さ。れ。う。と。詞。強。竭。く。諫。し  
 久。秀。吉。所。く。斯。ハ。愚。ある。最。事。なる。極。家。主。從。數。年。此。間。軍。事。に



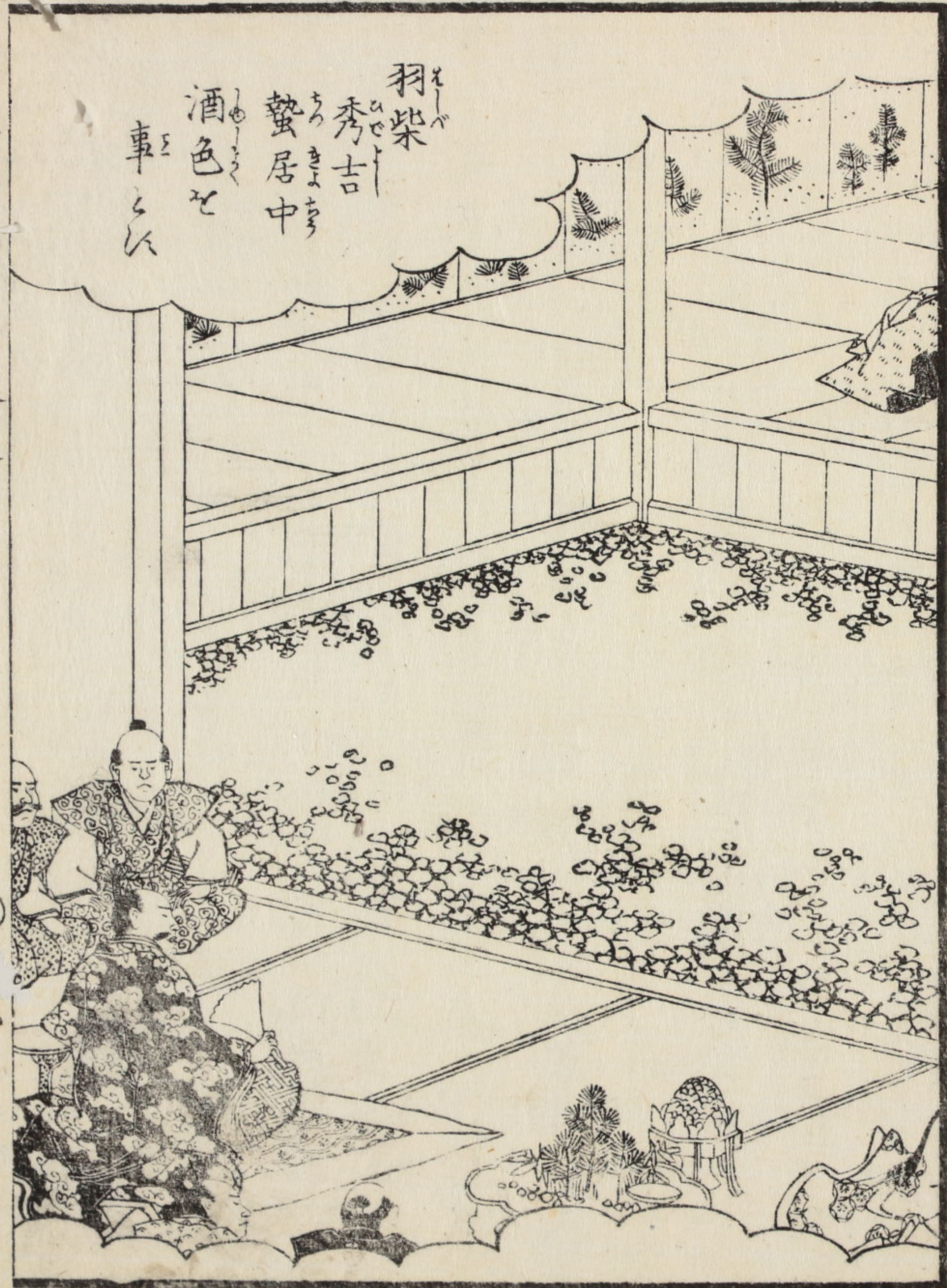
豊臣評話  
 巻之四  
 羽柴の諸家臣



豊臣評話  
 巻之四  
 羽柴の諸家臣

暇ふりし。片時も安座せざりし。今僕偉小安田たき酒  
 宴成遣ふ。快樂を以て。疲勞を補せん。と云ふれば。老堂宴  
 にも愉快く。舞散さるんと存する。却りたや。右沉思煩ひ。そ  
 つら心成痛むる。業外たるを。し。染侮の秀を。後長ある。成ま  
 許し。と云ふ。誰ふ。憚ると。後あ。人。を。益の。練師に。苦を。求  
 る。人。を。思。癡の。を。を。り。吾。因。門。の。か。ど。何。る。ま。う。近。日。等。は。以  
 漸。昭。あ。ん。が。存。び。軍。事。小。因。ら。ん。む。く。暫。時。の。遊。樂。を。も。亦。一。杯。の  
 獨。酌。を。も。其。ま。ま。と。こ。と。を。り。ご。う。只。此。暇。ふ。意。の。隨。く。遊。樂。せ。ん。と  
 欲。さ。る。な。れ。ば。遠。費。意。成。老。堂。宴。へ。ま。う。し。听。も。と。言。弁。も。猶。も  
 欲。舞。し。と。具。ト。る。ふ。ぞ。令。ふ。も。做。ら。れ。や。う。あ。く。其。座。を。選。ぶ。液  
 野。飯。成。招。れ。耶。の。の。と。門。禪。ま。は。各。興。も。醒。を。そ。く。愁。回。ゆ。

ことと。と。と。と。と。と。と。い。う。は。せ。ん。と。群。議。し。け。り。成。令。ふ。要。時。之。ま。せ  
 ら。ま。これ。ハ。自。妻。や。他。業。違。が。練。ま。と。も。益。ハ。あ。じ。竹。中。奉。玄。清  
 重。治。ハ。平。日。小。業。成。の。後。あ。ら。ど。考。敬。し。ま。ふ。人。あ。ま。ば。竹。中。大。人。ハ。相  
 釋。し。と。練。る。と。そ。よ。め。と。わ。と。何。を。と。ま。さ。バ。液。野。長。政。も。成。拍。く。是。ハ。直  
 し。た。お。わ。し。め。し。ま。る。も。早。く。竹。中。を。釋。ら。ん。と。と。液。野。は。ま。清。来。下  
 小。席。藤。井。又。右。泉。中。村。証。助。加。藤。福。治。片。桐。を。金。同。黨。竹  
 中。が。閑。居。小。釣。り。對。面。を。し。主人。の。始。終。を。品。詰。足。下。と。く。練。言。と。  
 容。さ。せ。ま。し。と。稟。し。ら。る。ふ。ぞ。重。治。荒。尔。と。う。ち。笑。ひ。是。下。侮。れ。幸  
 配。適。理。分。り。吾。快。送。符。を。知。法。も。と。も。練。む。と。と。と。子。に。か。由。急。小。そ  
 の。柔。欄。と。と。後。を。り。と。ま。う。せ。バ。液。野。証。し。と。練。む。と。と。と。し。と  
 宮。ふ。ハ。練。ま。と。も。主人。小。ハ。右。詮。听。容。を。と。ぬ。こ。と。よ。や。い。子。終。小。は。此



大業人の行ふ不賢愚にもに不存あり。まづ心小欲する事  
 へ他人の諫めも容ざるものなり。秀吉遠然小酒與に耽り放逸  
 其身とせらるるも。不存河をての律ありん小。何そこそ成誅争せ  
 んや。君の不興成象も。藝居を便舞あはれ酒意を催さるこ  
 と。思材あふこの稱えぬなり。後令秀吉佐長の。後慮れ怒を奉た  
 ればとて。そこそ成恨むる秀吉あふと。増てや天魔此障凝さる。い  
 律者くあふくも。殃に他小勝とといへ。羽柴の至徳を運成。かほ  
 て殃魔の祀とて。原末慎之深く。酒成好まぬ人なれば。本心の素  
 る中もみ。然らば誰か誅むるも。容ひらる。該にあふ。是下侮  
 心成勞せむとも。許さともあふ。和同小。陪宴せむとて。遊樂あはれよ。  
 戦國小遊樂とるもの。い川殿き人も量りか。遊樂とて。時と不

あふ。千歳を補ふ樂誤さるも。是亦大丈丈此不行か。河の俾  
 ると。後ろあふ。と。京と成所。清野ゆも。漸く主人の心成悟る。  
 然そあふ。安達とて。令正にも是と告まらる。倍ふんを容に  
 たり。响小大坂を預守此厭守する。天王寺副寨の守將。松永孫正  
 秀。倉卒に謀反。大坂境成引退さ。本城をりける大和の國志貴  
 山小對艇守。内府。款對此を。顯とて。駟るより。遠中成。天王寺  
 の直番頭領。依久。同右。清門尉信盛。筒井順泰。母より。頼小安らへ  
 注伸み。征伐延引法。まら。講し。大事小。と。所。めさ  
 れ。情。た。ま。ひ。預て。近。来。本。願。寺。成。征。伐。さ。る。ま。お。不。し。也。專  
 多。り。と。い。ふ。と。い。ども。軍。勢。不。足。あ。る。ま。由。急。小。然。い。さ。れ。る。時。を。圖  
 ひ。松。永。謀。叛。を。鼓。合。は。り。と。容。易。あ。る。ま。次。弟。あ。る。ま。ま。して。也。智

勇兼由は先將。頼とるり本頼寺に効力のさこえあるふり。心解ざる野人あり。と剛毅のあさぞめりたるが。豈料らんや。中くも今叛とて。六思とるりし。速即小征伐せま。く致されど。旗本殆ど執勢にして。進退誠小難けき。如何とも為べき中り。此小玉く。叛く秀右に。練め。稗的中せ。て始懐あり。而時小猪子。其物を使者とて。小岩の城を。秀右へ遣え。され。尋ね。さ音あふより。登く出仕い。と。命せ遣れ。と。七娘。これ

松永謀反志貴山城落亡属傳助愛死

周頼の密成して。腐腹せ。め。呉術ハ。飲で。権貴を。詭る。是人の酒小。惑ふなり。然る小羽柴。筑前。秀右。酒成り。け。怨歎を。惑ふ。と。の大量ハ。李白が。一斗。も。い。せ。る。乃。ん。然。不。秀。右。ハ。日。新。酒。具。小

嗜むのとき。松永。彈正。謀反。と。志貴。山。小。瀬。ち。し。し。注。伴。ある。と。所。え。な。れ。バ。家。人。倅。愕。さ。秀。右。小。斯。と。告。た。る。バ。然。ハ。酒。宴。も。是。ま。で。な。り。出。仕。の。准。備。い。し。を。度。と。伴。率。狗。の。詞。を。命。け。け。る。家。人。倅。意。落。む。と。い。ども。流。く。行。休。あ。し。る。不。安。之。上。使。入。来。し。な。れ。バ。淺。野。孫。左。清。出。逢。一。本。丸。へ。請。ト。ろ。ふ。ぞ。秀。右。衣。服。を。華。め。出。て。意。い。ふ。と。奉。所。る。猪。子。兵。助。該。意。成。傳。へ。君。に。鞠。向。は。き。東。あ。ま。い。川。の。如。く。出。仕。さ。く。命。せ。り。と。舒。な。れ。バ。秀。右。慎。む。兼。伏。し。膜。拜。と。す。ま。る。と。言。ふ。る。や。唇。や。上。使。小。續。い。く。伴。率。俱。し。直。地。小。安。土。へ。奉。上。す。小。岩。より。安。土。信。長。早。速。御。前。へ。吸。き。秀。右。救。日。誓。語。く。幸。勞。し。は。ま。不。道。惑。ハ。さ。ぞ。う。衰。ハ。は。く。ん。と。お。が。さ。れ。容。貌。残。存。免。め。ふ。此。も。屋。せ。し。氣。色。さ。く。健。然。と。て。出。仕。し。け。き。バ。信。長



羽柴小向をせむひ汝久しく厭藝く窮したる人と訊ね申す秀  
 吉慎重所せり。小長軍居はすまのま下も。別小過おさる由急の最  
 此河缺恩試養ることも。要時の浮雲と存したるは。頼く晴さを  
 玉えん日代相漢はそふく神も。牙心退屈はすまのらむ。却て数年  
 の苦勞を散し。遊興なして十分小。銳氣試養ひい急今いり  
 ある別款とも。骨と存せむい。河心寧れと漢くも。信長やと  
 く感悦ましく。然バ別事段論むら小及をも。今志貴山の松  
 永彈正謀をさく石山と。合解と。然る小大坂殿守の兵士隊  
 疎なれば。征伐しがく。贖中國の小寺。別不候陣代の義を頼ふ  
 といとも。旗本の大将勲はま。いんとも。此方術を。汝  
 可存もこれあは。京一野と令せある。秀吉會て有状とく

松永謀及一軍城をも。何事の事らゆるん早く征軍を考ふる  
 盈し。ましく向をせむに及む。又河津旗本城虚し。むすも  
 一。信忠御法大将とく。佐久間惟任。長尾倣。大坂を義村諸士達  
 一筒井順慶の一隊。征伐副ら。道守教司とく。當向まむ。易く  
 征伐はすまのらむ。最も大坂を義村隊空虛小相成い。本願  
 寺とるを發軍もあらず。西國のサ。延恩と。憂ふべき事へ  
 よも。何と。ましく松永征伐は。河津指揮あ。ま。し。す  
 濱れ。内府發に。か。り。め。子。速。信。忠。大。將。と。て。羽。柴。が  
 東せし人。征伐の事を命ら。秀吉頼く。東と。筒井  
 順慶の法障なれ。智勇の家長。教多。増く。松永。久。秀。と。は  
 累年。地。系。ふ。の。敵。小。と。武。道。切。奮。此。久。秀。と。大。和。一。國。小。双。立。

武威滅亡の名家なれば松永退治の先陣小筒井ありて  
 稱ふまじと。言状しつる詞を信し。順慶をりく先陣松永  
 先陣松永の主将大小悦ひその准儀をぞおしたる。然も小石  
 山本頼寺の厭守とて將中秀吉を借小置れ。後田城之助信忠  
 長尾之助大輔。惟任日向。佐久間右衛門尉。筒井順慶。總勢二  
 万有餘人。十月晦日の登天小和川片墨の城に推進せし二を  
 攻起ける。此ハ松永が旗本海老宗を清友清康を助心友  
 守とぞ承り。進乞此總軍三方より。一時小攻蒐るるの中  
 長尾孫孝が子与一郎。同頼二郎。兄弟初戦なる。兄ハ十五  
 歳小。二人極群の捲き。一番敵の有名あり。このハ惟任  
 日向也。此類に類ある城。随分防をいと。進乞たる也。

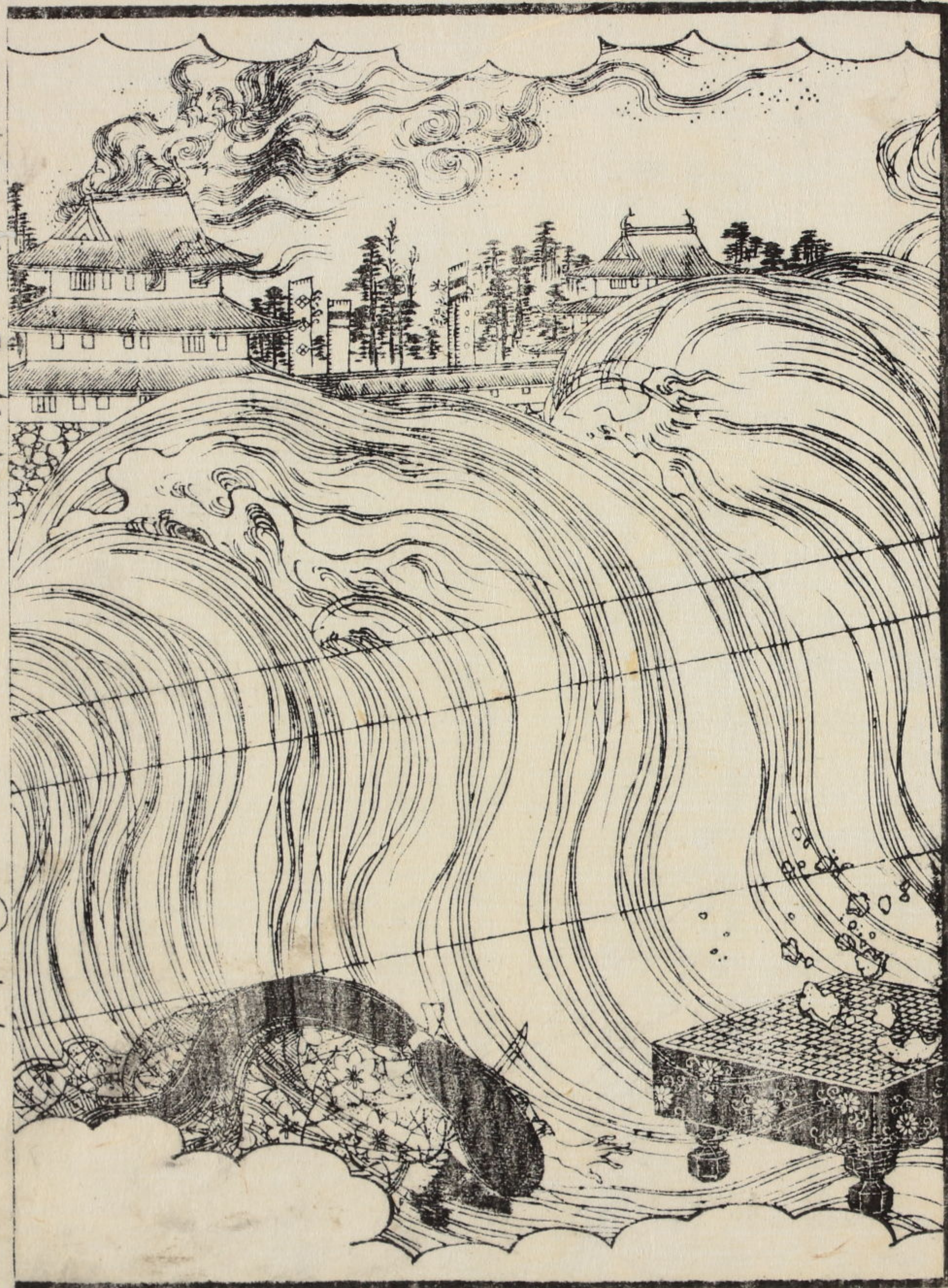
筒井頼寺  
 長尾孫孝  
 長尾孫孝の  
 子与一郎

則々進出。遂に諸を以將率借に。敵死をりく。城ハ陷けり。城之助  
 大小悦び。同日十月。松永が居城志貴山ハ推進す。先陣  
 ハ筒井順慶。地理分明の道守系に。多事怨歎の松永。城  
 謀るる。この城ハ先陣の進乞。惟任長尾。佐久間の  
 諸將もこそ小續く極進。城法之を。銃を以て。蒐  
 二日の隙息をも次第。微塵ふるれと擧起たる。山ハを襲  
 此要崖ふる。將ハ死地の松永。とこそ小後門ハ必  
 死と先朝決し。進乞擇く。八千餘人を。願を防戦  
 けり。進乞の多。擧ぐるの。分。城ハ氣絶す。然  
 る。松永。彈正。運命盡ぬ。時節。自軍の諸士を。一  
 集め。當城。固の。休小見ぬ。兵糧。矢銃。限。一。

豊臣言四續卷之十

小くは借ふ事なり。万乞密使成をしく大坂本願寺に門徒を懐  
 へ。猶亦中國の先利に授け加勢を乞ふ人と欲するあり。惟を  
 遠使士小赴く所なり。と京を伐听て傳へり。森傳助好之進を  
 出く使者を望む。遠傳助といえる者。筒井家の忠臣なり。一  
 が。互問のため先年より。松永に仕へて忠義成るをこと。既小  
 十年小及びたる由急。今之秀も疑を。腹心の如くあり。一  
 り。固く遠遭の密使をも。森傳助小命とす。好之捕地小これ  
 成收び。身を最率に如くに。お拾取小給を。城を潜り出願く  
 筒井が陣小到る。謀成ぞ謀し。順慶喜ぶこと。限るをなく  
 自勢れうちおく二百人の勇士成撰きて。石山勢小打拾せ。暗号  
 成定めたる。傳助城中へ立降り。本願寺より加勢せり。今月

九日此夜。城より川へ。山越るを。困道より。城中へ来る約束あり。と  
 返編号をも見せたる。薄正大小これ成收び。加勢の来る成待  
 たり。かどおく九日の夕へ。傳助好之背略より。筒井が  
 勇士二百餘人成。志貴山の城へ。導系し。され。松永父子成  
 實と。近日進を。退拂へん。飲饒を。く。明日まで。志貴山  
 の城を。去け。ま。つ。る。の。ゆ。ひ。ど。所。意。寧。く。か。が。し。わ。と。一  
 一。其。謀。計。ハ。那。般。と。傳。助。が。事。成。言。演。れ。バ。信。忠。大。小。威  
 成。あ。つ。緒。士。一。由。遠。義。成。謀。され。り。然。か。ど。に。森。傳。助。ハ。其。最  
 二百餘人。余。と。て。城。中。へ。一。火。を。掛。せ。威。成。一。同。小。為。荒  
 肉。を。風。回。を。用。し。久。進。兵。一。地。小。入。也。城。兵。これ。小。驚。怖。也。



志貴山の城陥るに

十五



志貴山の城陥るに  
 臨みて松永久秀  
 平蛛の茶釜を  
 打碎く

志貴山

十四

平兵衛の  
妻の  
山梨の  
寺に  
懸せし  
れ

右願た倒る。一々刀内外の筒井勢極威を奮ひ。一個も刺さば殺投ま。と四角八面一斬く廻る。これがたあ小或の敵も或は落失款。さら城もありける。遠時松永彈正も。自害をうんと。殘兵小令。ト。要時が際防矢させく。まづり。天守小崎登橋子。右清門佐之進を招ぎ。吾今中途小殺を取るも。是金信長の不為あり。汝を死成全ふ。く。虚を窺ふ。信長を。切く。一。刀恨む。か。あ。は。憶念せよ。やと命ど。久通父の死を見棄。離散する小忍び。さ。久秀種。理。我。説。論。一。獨。長。を。割。く。落遣。猶。殘。念。ある。こと。を。何。と。平。生。秘。藏。を。一。つ。り。る。平。藤。といふ。茶。金。あり。と。世。小。類。を。記。名。懸。あり。が。日。來。信。長。遠。平。藤。氏。類。小。懸。望。あり。つ。ま。も。曾。て。こ。の。氏。贈。与。へ。ど。今。備。に。留。置。バ。

信長の手小入もや。と。怨。小。類。る。脅。力。成。突。し。激。廣。と。あ。し。く。碎。き。ハ。偏。執。も。ま。と。深。う。り。け。る。然。し。く。后。小。衆。傳。助。が。愛。ん。で。我。嘆。罵。り。と。の。れ。好。久。聖。日。成。も。待。て。そ。が。怨。具。此。行。と。依。や。を。安。座。と。と。登。記。と。憤。怒。此。眼。赤。鬼。の。像。く。天。守。此。口。方。に。大。旗。放。ち。と。何。う。楯。の。正。中。へ。劔。を。う。う。え。く。跳。投。遂。小。空。し。く。燒。亡。し。り。時。小。天。正。四。年。十。月。十。日。久。秀。逝。年。六。十。八。歳。と。下。れ。戦。死。三。千。餘。人。志。貴。山。落。城。せ。り。大。將。信。忠。諸。將。皆。卒。し。同。十。二。日。凱。陣。あり。と。京。城。二。条。此。城。へ。漸。入。あり。と。軍。の。事。と。始。終。缺。欠。多。く。安。土。言。状。あり。と。信。長。公。大。悦。せ。り。と。堀。久。右。衛。門。秀。政。松。井。友。閑。氏。所。使。者。と。二。條。の。城。へ。を。も。た。れ。捷。軍。に。賞。成。享。ふ。せ。り。と。筒。井。順。慶。小。大。和。一。國。足。を。錫。り。け。る。と。

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



順慶が收び涙なく。早速安去へ冬候しく。漸禮まうし謝したる  
 くら。備亦歳傳助好之ハ。遠殺の功才一なりとく。筒井家随一の家  
 長とあり。飽中で夜食住小冨菜へ。勢威壮きりたるが。二年不事  
 あふして。自己が随意過したる。然る小天正六年の秋涼て。草木  
 衰へ蟲の音耳小あられ哉。佐ふしく。吹來る風も寒くと身に粟  
 撒き。志涼ハ氣極る武去も。勇氣折く機化なり。傳助妻小  
 侍女と伴て。茶漬烹山菓を嘗むとつ。秋の夜長れ。徒然と傳  
 しくあつるたるが。秋も園小なりゆきて。干草に聚く虫の顔も。吟  
 倦ましくや。撲他と休。それと一時小吹來風の本の葉。伴引て。想と  
 入る。庭と遮る。涼紙戸上戸路下戸路。残島地小離き。侍女  
 案の肩腰へ。飄流く。暴落流とわたりく。女婢の傳れ。謀をくも。

右様左。逢小。逃惑ふ哉。傳助妻小指あして。燈火情さうとる  
 らせ。が。い。る。る。ん。燈。基。紙。火。移。星。燃。起。り。熾。と。共  
 小呼怪しや。烏帽子冠する白髪。の鬼。膝。膝。く。と。現。ま。り。不  
 歌の傳助床に。坐する太刀。推。把。て。斬。んと。と。れ。と。五。體。さ。あ。が。り。傳  
 せ。れ。る。像。く。み。き。些。も。動。く。と。能。く。は。噫。朽。滅。中。と。叫。川。も。白  
 髪。鬼。を。脱。と。腫。こ。や。ま。六。三。年。以。前。志。貴。山。で。亡。失。る。松。永。潭  
 心。久。秀。子。り。傳。助。が。誓。摺。む。柱。起。る。残。斬。拂。と。ん。と。一。喝。呼。べ。傍。る  
 侍女。う。ち。愕。さ。枕。下。に。倚。く。呼。覚。さ。小。愕。然。と。て。羞。醒。り。然。も  
 猶。更。久。秀。が。怒。哭。眼。前。小。さ。り。ま。く。その。懼。畏。し。た。こと。い。つ。ぶ。ぶ  
 ち。送。後。傳。助。妻。明。れ。も。脱。刀。さ。り。ま。く。走。行。る。狂。言。傳。費。し。く  
 休。ざ。り。け。ん。か。怒。る。愈。く。久。秀。が。自。害。さ。り。たる。月。日。残。送。へ。び。三。年

豊臣評四編卷之七

七

周<sup>あふ</sup>より忌<sup>いひ</sup>日<sup>ひ</sup>あり天<sup>あま</sup>正<sup>ただ</sup>六年十月十日<sup>とちゅうじつ</sup>狂<sup>くる</sup>死<sup>し</sup>ぬぞ殞<sup>たふ</sup>しうなる

繪本豊后勲功記四編卷之七終



